

條件附法律行為カ物權讓渡ノ如キ物權的行為ナルトキ條件附義務者カ其條件ノ決定前其物權的行為ノ目的ト相容レサル處分行爲ヲ爲シタルトキハ其處分ノ任意處分タルト、強制執行、若クハ假差押、又ハ破産手續ニ依リタルトヲ問ハス、條件ノ決定ニ因リテ條件附權利者ノ得クヘカリシ利益ヲ侵害シタル限度ニ於テ無効トナリ、且ツ之カ爲メニ損害ヲ與ヘタルトキハ其賠償ノ責ニ任セサルヘカラス。之ヲ以テ通説トス。尤モ實際ノ場合ニ於テ當該條件附物權的行為カ第三者ニ對スル對抗要件（第一七七條、第一七八條）ヲ具備セサルカ爲メ、若クハ第三者カ第一九二條又ハ時効ノ規定ニ基キテ目的物ノ所有權ヲ完全ニ取得シタルトキハ、條件附權利者ハ唯單ニ當該條件ノ成就ニ因リテ受クヘカリシ利益ノ損害ニ對シテ其賠償請求權ヲ有スルニ過キサレコトアルヘシ。

3、牴觸行為カ事實行為ナル場合

條件ノ成就ニ因リテ相手方ノ受クヘカリシ利益ヲ害シタル行為カ事實行為ナルトキ、例ヘハ故意又ハ過失ニ因リテ條件附法律行為ノ目的物ヲ滅失毀損シタルトキ條件附權利者ハ行為者ニ對シテ其損害賠償ノ請求權ヲ有ス。

4、前掲牴觸行為ノ無効又ハ損害賠償ノ效果ハ何時ヨリ發生スヘキヤ。通説ハ之ヲ解シテ當該條件ノ成就ニ因リテ條件附權利者カ其行為成立ノ當初ヨリ期待シタル利益ヲ受クヘキコトノ決定シタル時ナリトス。正説ト信ス。蓋シ民法カ其明文ヲ以テ期待權ヲ保護シタル所以ノモノハ當該條件ノ成就シタル場合ニ於テ其行為ノ目的トシタル利益ノ實現ヲ可能ナラシメンカ爲メニ外ナラサルヲ以テ、モシ夫レ當該ノ條件ニシテ不成就ニ終ランカ、條件附法律行為ハ何等其效果ヲ發生スルコトナク、隨ツテ所謂期待權者ヲ保護スル何等ノ必要モ亦之ヲ見サルニ至レハナリ。故ニ當該條件ノ不成就ハ牴觸行為ノ效果ヲ當然ニ一掃スルモノトス。

三、第三者ノ侵害

所謂條件附權利ニ付キ第七〇九條ニ所謂不法行為成立スヘキヤ。學說中條件附法律行為ノ目的カ物權ナルトキハ然リト爲スモノアリ。惟フニ第三者ノ不法行為ニ因ル權利侵害ヲ以テ絶體權ニ限ルト爲スノ論結ナルヘシ。然レ共第三者ニ因ル債權ノ侵害モ亦之ヲ認ムルコトヲ得ルトセハ權利保護ノ法律制度上單リ絶體權ノ侵害ノミナラス、債權ノ如キ相對權ノ侵害モ亦之ヲ保護セサルヘカラス。故ニ吾人ハ條件附法律行為ノ目的カ物權ナルトキハ勿論、假令債權ナル場合ニ於テモ亦第三者ニ因ル不法行為ノ成立ヲ認メテ其損害賠償ノ責ニ任セシメサルヘカラスト解ス。隨ツテ規定上「各當事者」トアルカ如キニ對シ敢テ拘泥スヘキニ非サルナリ。

四、條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得（第二九條）。蓋シ茲ニ所謂當事者ノ權利義務トハ固ヨリ條件附權利義務ノ謂ニ過キスト雖モ尙ホ將來其條件ノ成就ニ因リテ相手方ノ受クヘキ利益ヲ中心觀念トスル一種ノ財產權ナルカ故ニ、其一身ニ專屬セサルモノナル限り、其處分又ハ相續等固ヨリ可能ナルヘキモノナレハナリ。

【註】1、茲ニ「一般的規定ニ從ヒ」トハ其條件ノ成就シタル場合ニ於テ取得セラルヘキ權利ノ性質及ヒ種類ニ關スル規定ニ從ヒテノ謂ナリ。故ニ例ヘハ若シ將來取得スヘキ權利カ債權又ハ物權ナルトキハ債權又ハ物權ニ關スル規定ニ從ヒテ茲ニ所謂期待權ノ處分又ハ相續等ヲ爲スヘキナリ。

【註】2、茲ニ處分トハ權利ノ讓渡、拋棄等ヲ爲スヲ謂ヒ、保存トハ登記、時効ノ中斷等ヲ爲スヲ謂ヒ、擔保トハ質權、抵當權ヲ設定シ、又ハ保證人ヲ立テシメテ其權利ヲ確保スルカ如キヲ謂フ。

### 第二目 條件ノ決定後ノ效力

停止條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス。解除條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ（第二七條第一項第二項）。

一、條件ノ成就又ハ不成就ノ意義及ヒ其決定ノ時期、標準ニ關シテハ既ニ之ヲ説キタリ。

二、條件成就スルトキ停止條件附法律行為ニ在リテハ其行為ノ目的トセル權利義務發生シ、解

除條件附法律行為ニ在リテハ其效力ヲ失ヒテ權利ノ復舊ヲ生シ、隨ツテ義務者ハ其義務ヲ免ルルニ至ルヘシ。

1、條件成就ノ效力ハ當然ニ生ス。茲ニ當然トハ當面ノ條件附法律行為カ其效力ヲ生シ（停止條件ノ場合）又ハ其效力ヲ失フ（解除條件ノ場合）ニ付キ唯當該ノ條件成就トイフ事實アレハ足り、他ニ何等ノ行為ヲ必要トセサルヲ謂フ。

2、條件成就ノ效力ハ物權的ニ生ス。即チ條件成就ノ效果ハ當ニ當事者間ニ於テ條件附法律行為ノ效力ヲ生シ又ハ之ヲ消滅セシムヘキ債權債務ノ關係ヲ生セシムルニ止マラス、其行為ノ目的トシタル效果カ何人ニ對スル關係ニ於テモ絶體的ニ發生スルナリ。但シ之ヲ以テ第三者ニ對抗センカ爲メ特定ノ手續ヲ必要トスル場合ニ於テハ更ニ其手續ヲ經ルコトヲ要ス。

三、條件成就ノ效果ハ原則トシテ既往ニ遡及セス。即チ條件成就ノ時ヨリ將來ニ向ツテ其效力ヲ發生又ハ消滅スルヲ原則トスルナリ。故ニ停止條件附法律行為ニ於テモシ條件成就前ニ其辨濟ヲ爲シタルトキハソハ所謂非債辨濟トナリテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（第七〇三條、第七〇五條）。蓋シ條件ノ成就前ニ於テハ當事者間ニ未タ債權關係ノ成立スルコトナケレハナリ。又停止條件附物權移轉行為ニ在リテハ其物權移轉ノ效果ハ條件成就ノ時初メテ發生スルモノナルカ

故ニ、條件成就前ニ於テ取得セル果實ハ物權取得者ニ之ヲ引渡スコトヲ要セサルナリ。尙ホ解除條件附物權移轉行為ニ在リテモ條件成就スルニ非サレハ其物權ハ原權利者ニ復歸スルコトナキカ故ニ、讓受人ハ條件ノ成就スル迄引續キ物權者タルコトヲ得ルナリ。

四、條件成就ノ效果ハ之ヲ既往ニ遡及セシメサルヲ以テ原則トスレ共、コレモト當事者ノ意思解釋ニ基ク規定ニ外ナラサルカ故ニ、當事者ハ又之ト反對ノ特約ヲ爲スコトヲ得。民法第一二七條第三項ハ之ヲ規定セリ。

1、條件成就ニ遡及效ヲ認ムル特約ハ當該條件附法律行為成立ノ當初ニ於テ爲サレ、或ハ又其成立後ニ於テ爲サルコトアルヘシ。前者ニ於テハ其特約ハ條件附法律行為ノ一部ヲ爲スカ故ニ其效果ハ固ヨリ當然且ツ物權的ニ發生スヘシ。然レ共之カ爲メニ他ノ規定(第一七七條、第一七八條、第一九二條等)ニ依リテ保護サレタル第三者ノ利益ヲ侵害スルコトヲ得ス。後者ニ於テハ其特約ハ條件附法律行為ト別個ノ法律行為ナルカ故ニ其效果ハ之ヲ當然且ツ債權的ナリトスルヲ相當トス。

2、何時迄遡及スヘキヤニ付キ民法之ヲ明示セス。故ニ當事者ハ其意思表示ニ依リテ條件附法律行為ノ成立ノ時迄遡及セシムルコトヲ得ヘク、又其成立後條件成就前一定ノ時迄遡及セシム

遡及效ノ例

條件不成就ノ效果

ルコトヲ得ヘシ。

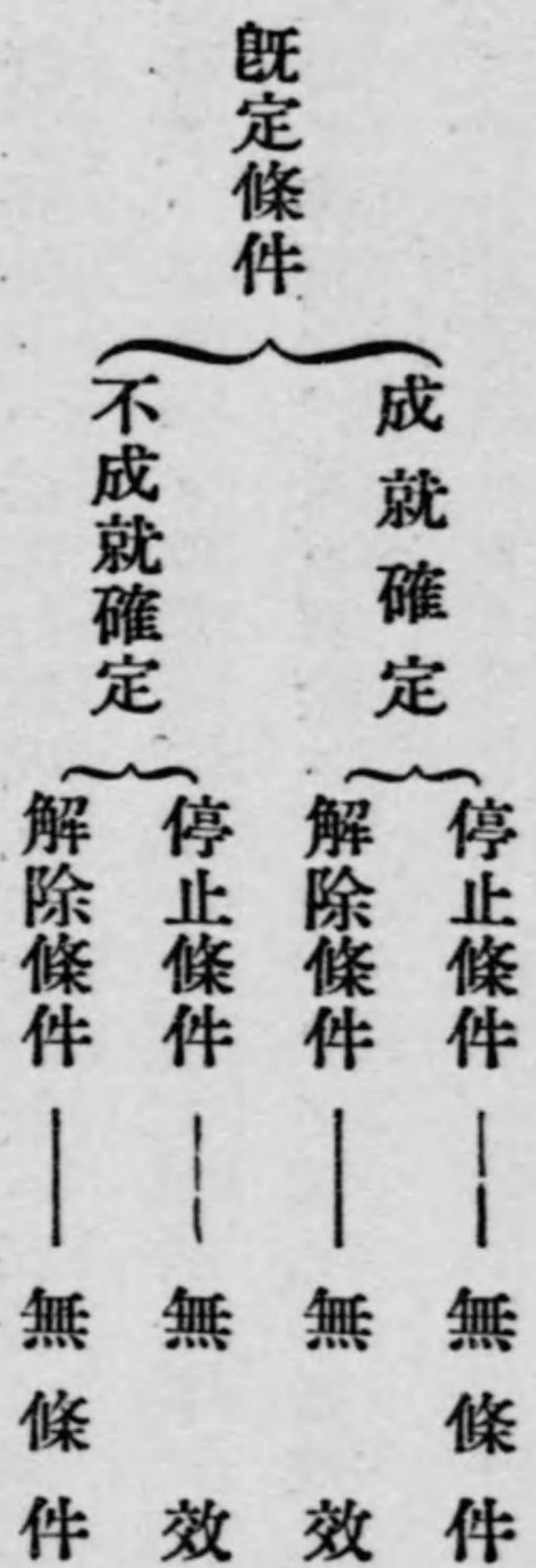
五、條件カ若シ不成就ニ決定スルトキハ停止條件附法律行為ハ其效力生セスシテ無効トナリ、解除條件附法律行為ハ無條件トナリテ其效力ヲ失ハサルコトニ確定ス。曩ニ期待權侵害ノ抵觸行為ノ效果カ條件ノ不成就ニ因リテ一掃セラルヘシト爲シタルハ之カ爲メナリ。

### 第六項 假裝條件附法律行為

假裝條件 (Scheinbedingung) トハ條件ノ外觀ヲ有スルモ其實條件タル性質ヲ有セサルモノヲ一括シテ謂フ。隨ツテ法律行為ノ效力ノ發生又ハ消滅ヲ不確定ノ事實ノ成否ニ繫ラシムルコトナシ。之ニ種々アリ。次ノ如シ。

1、既定條件トハ法律行為成立ノ當時既ニ成否ノ確定セル事實即チ現在又ハ過去ノ事實ヲ以テ條件事實トスルモノヲ謂フ。隨ツテ既定條件ハ眞ノ條件ニ非サルカ故ニ其效果トシテ法律行為ノ效力ヲ停止シ、又ハ解除スルコトナク唯之ヲ無効又ハ無條件トナスノミ。簡約スレハ次ノ如シ(第一三二條)。

既定條件



既定條件ニ付テハ既定條件附法律行為ノ當事者カ其條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第一二八條及ヒ第一二九條ヲ準用ス（第一三一條第三項）。然レ共是既定條件ヲ以テ眞ノ條件ト見タルモノニ非スシテ取引ノ便宜上特ニ認メラレタル效果ナリ。次ノ如シ。

a、既定條件附法律行為ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行為ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス。

b、當事者ハ條件ノ成否ヲ知ラサル間ニ於テ其權利義務ヲ一般ノ規定ニ從ヒ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得ルモノトス。

【註】尤モ第一三一條第三項ハ立法論トシテ考慮ノ餘地アリ。蓋シ所謂既定條件附法律行為カ無條件ナルトキハ當該條件ノ成否ニ付キ當事者カ之ヲ知レルト否トヲ問ハス其法律行為ノ效力ハ既ニ確定セルモノナルカ故ニ、敢テ本項ノ規定ヲ俟ツ迄モナク當然ニ其權利ノ不可侵並ニ處分等ヲ爲シ得ヘク、又其無効ナル場合ニ於テハ當事者カ假令之ヲ知ラスト雖モ固ヨリ其間ニ所謂期待權ノ存スル謂レナケレハナリ。

不法條件

2、不法條件

不法條件 (unsittliche Bedingung) トハ條件事實ノ内容カ常ニ強行法規又ハ公序良俗ニ反スルカ爲メニ非スシテ、其條件事實ニ法律行為ノ效力ヲ繋ラシムルコトカ不法ナル場合ノ條件ヲ謂フ。故ニ積極的ニ不法ヲ爲スコト、又ハ消極的ニ不法ヲ爲ササルコトヲ條件トスルモ、モシ斯ノ如キ條件ニ法律效果ノ生滅ヲ繋ラシムルコト自體カ不法ナルトキハ其條件ハ即チ不法條件トナルナリ。例ヘハ「汝贈賄ヲ爲ストキハ余汝ニ千圓ヲ與フヘシ」、「汝人ヲ殺ササルトキハ余ハ汝ニ千圓提供スヘシ」ト謂フ場合ノ如キ是ナリ。

不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トス。其積極的ニ不法ヲ爲スコトヲ條件トシタル場合ナルト、消極的ニ不法ヲ爲ササルコトヲ條件トシタル場合ナルトヲ問ハサルナリ（第一三二條）。

【註】1、條件事實ノ不法ナリヤ否ヤハ、ソカ公序良俗（第九〇條）ニ反スルヤ否ヤニヨリテ之ヲ決スヘキモノトス。

【註】2、或法律效果ノ生滅ヲ條件ニ繋ラシムルカ爲メニ其法律行為ニ不法性ヲ與フルト、其法律行為ノ目的自體カ不法性ヲ固有スルトハ之ヲ區別シテ觀念スルコトヲ要ス。即チ前者ハ第一三二條ノ問題ニ屬スレ共、後者ハ第九〇條ノ問題ニ屬スレハナリ。

【註】3、條件ソノモノカ不法ナルコトヲ要スルヤ。必スシモ之ヲ要セス。例ヘハ「汝盜マサレハ」ト謂フ

カ如ク條件事實ハ不法ニ非サレ共、之ニ法律効果ノ生滅ヲ繫ラシムルコトカ不法ナレハ足ル。

【註】4、消極的ニ不法ヲ爲サザルコトヲ條件トスルハ一見不可ナキカ如シ。然レ共斯ノ如キハ當ニ法ノ要求スル社會人ノ本務ナルノミナラス、モシ之ヲ解除條件ト爲サンカ、即チ間接ニ不法ヲ促進スル結果トナリ、又之ヲ停止條件ト爲サンカ、當事者カ法ノ禁スル不法ヲ爲スト否トカ當事者ノ當該法律効果ニ對スル意欲ノ有無ニ因リテ左右セラル、コトアルカ故ニ不可ナリ。是第一三二條後段ノ制定理由ナリトス。

不能條件

3、不能條件

不能條件 (unmöglichkeit Bedingung) トハ客觀的ニ不能ナル事項ヲ内容トスル條件ヲ謂フ。即チ法律行為ノ成立當初ヨリ其條件ノ成就カ客觀的ニ不能ナル場合ヲ謂フ。而シテ事實上ノ不能ナルト、法律上ノ不能ナルトヲ問ハサルナリ。

不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行為ハ無効トナリ、不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行為ハ無條件トナル(第一三三條)。

法定條件

4、法定條件

法定條件 (Rechtsbedingung) トハ法律ノ規定ニ依リ法律行為ノ效果ヲ發生又ハ消滅セシムル要件ト爲シタル事實ヲ謂フ。當事者ノ意思ニ基カサルカ故ニ所謂條件ト謂フヲ得ス。然レ共例

ヘハ無權代理行為ニ於ケル本人ノ追認(第一一三條第一項)、又ハ法人ノ設立行為ニ於ケル主務官廳ノ許可(第三四條)等ニ於テ見ルカ如ク法律行為ノ發効又ハ失効カ將來且ツ不確實ナル事實ノ成否ニ繫ル點ニ於テハ固有ノ條件ト其性質ヲ同クスヘシ。コノ故ニ固有ノ條件ニ關スル規定ヲ之ニ準用スルコトヲ得ルモノトス。

第二款 期限

第一項 期限ノ意義

期限 (Zeitbestimmung) トハ法律行為ヲ構成スル意思表示ノ一部分ニシテ其法律行為ノ效力ノ發生、消滅又ハ債務ノ履行ヲ將來發生スルコトノ確實ナル事實ノ發生ニ繫ラシムルモノヲ謂フ。分説スレハ次ノ如シ。

1、期限ハ法律行為ノ效力ノ發生、消滅又ハ債務ノ履行ヲ制限スルモノナリ。民法上法律行為ノ效力發生ヲ停止スヘキ期限ハ之ヲ規定セスト雖モ、法律行為ノ履行ヲ制限シ又ハ其效力ヲ消滅セシムル期限ハ之ヲ規定セリ(第一三五條)。前者ハ之ヲ始期ト謂ヒ、後者ハ之ヲ終期ト謂フ。

【註】民法ハ債權の行為ニ付テノ履行始期ヲ認ム。物權的行為ニ於テハ其效力ノ發生ト同時ニ物權ノ設定、

期限ハ法律行為ノ效力ノ發生、消滅又ハ債務ノ履行ヲ制限ス

期限ノ意義

變更又ハ消滅ノ効力ヲ生シテ債務履行ト謂フ如キ問題ヲ生スルノ餘地ナケレハナリ。然レ共當事者カモシ法律行為ノ効力發生ヲ停止スヘキ始期ヲ定メタルトキハ敢テ之ヲ禁止スルノ理由モ亦ナカラシ。故ニ例ヘハ明年四月一日ヨリ此建物ヲ貸貸スト謂フカ如キ契約ヲ締結シテ其法律行為ノ効力發生ヲ明年四月一日迄停止スルコトヲ得ルハ勿論、明年一月一日ニ此建物ノ所有權ヲ移轉スヘシト謂フカ如キ物權的法律行為ニ於テ其効力ノ發生ハ明年一月一日迄之ヲ停止セラレタルモノト解スルモ亦何等不可ナキモノト謂フコトヲ得ヘシト信ス。

2、期限ハ將來發生スルコトノ確實ナル事實ヲ以テ其内容トナスモノナラサルヘカラス。是期限カ成否ノ不確定ナル事實ヲ其内容トスル條件ト區別セラルル要點ノ一ナリ。而シテ將來發生スルコトノ確定セリヤ否ヤハ當事者ノ意思以外ノ標準ニ依リ社會通念上客觀的ニ之ヲ決定セサルヘカラス。

【註】1、期限事實(期限ノ内容トナルヘキ事實)ハ將來發生スルコトノ確實ナルモノナルコトヲ要スレ共、其實現ノ時期迄豫メ確定セルモノナルコトヲ要セス。故ニ「吾死セハ」ト云フカ如キモ(不定期限)尙ホ期限タルコトヲ得ルナリ。

【註】2、法律行為ノ附款中何カ條件ニシテ、何カ期限ナリヤノ決定ハ當事者ノ爲シタル意思表示ノ解釋ニ之ヲ俟タサルヘカラス。

3、期限ハ法律行為ヲ構成スル意思表示ノ一部ナリ。即チ法律行為ノ任意的附款ナリ。故ニ法律又ハ裁判所ノ定メタル期限(例ヘハ第二七八條第三項、第一九六條第二項等)ハ茲ニ謂フ所ノ期限ニ非ス。

期限事實

期限ハ任意的附款ナリ

期限ノ種類

始期及ヒ終期

確定期限及ヒ不確定期限

期限ノ許可

第二項 期限ノ種類

一、始期及ヒ終期

始期トハ其到來マテ法律行為ノ効力ノ發生又ハ債務ノ履行ヲ停止スル期限ヲ謂ヒ、終期トハ其到來ニ因リテ法律行為ノ効力ヲ消滅セシムル期限ヲ謂フ。

二、確定期限及ヒ不確定期限

確定期限トハ期限事實ノ發生ハ勿論、其發生スル時期迄モ亦豫メ確定セル期限ヲ謂ヒ、不確定期限トハ期限事實ノ發生ハ確實ナルモ未タ其發生スル時期ノ不確定ナル期限ヲ謂フ。

【註】故ニ「余死セハ」トイヘハ所謂必至條件ニ非スシテ不確定期限ニ屬ス。

第三項 期限ノ許可

一般ノ法律行為ニハ期限ヲ附シ得ルヲ以テ原則トス。然レ共之ニ對シテ例外アリ。其理由ハ條件ノ許可ニ關シテ述ヘタル所ニ同シ。

條件ハ相手方ヲ不確定ナル地位ニ置クカ故ニ之ヲ附スルコトノ許サレサル場合アリ。然レ共期限ハ其到來カ必至ニシテ何等相手方ヲ不確定ノ地位ニ置カサルカ故ニ條件ヲ附シ得サル法律

行為ニ尙ホ期限ヲ附シ得ルモノアリ。例ヘハ解約ノ意思表示又ハ手形行為ノ如シ。

所有權ハ永久の性質ヲ有スルモノナルカ故ニ之ニ終期ヲ附スルコトヲ得ストノ論アリ。然レ共期限ハ條件ト同シク法律行為ノ附款ナルカ故ニ、終期附法律行為ニ於テ終期ノ到來ハ其法律行為ノ效力ヲ消滅セシムレ共、其法律行為ニ因リテ讓渡セラレタル所有權自體ヲ消滅セシムルモノニ非ス。故ニ所有權讓渡行為ニ終期ヲ附スルモ何等之ヲ無効トスルノ理由ヲ見ス。

#### 第四項 期限附法律行為ノ效力

##### 第一目 期限到來後ノ效力

一、期限ノ到來トハ期限事實ノ發生スルヲ謂フ。期限附法律行為ノ制限ハ之ニ依リテ除去セラレ。例ヘハ始期附法律行為ニ在リテハ期限ノ到來ニ因リテ法律行為ノ效力ヲ發生シ、又ハ債務ノ履行ヲ請求シ得ヘク、終期附法律行為ニ在リテハ法律行為カ其效力ヲ消滅スルニ至ルカ如シ（第一三五條）。

【註】期限ノ到來ハ必至ナリ。即チ事件ノ發生ヲ以テ之ヲ定メタルトキハ其事件ノ發生ニ因リテ、曆日ヲ以テ之ヲ定メタルトキハ其日ノ到來ニ因リテ、又期間ヲ以テ之ヲ定メタルトキハ民法所定ノ計算法ニ依ル末日ノ終了ニ因リテ到來ス。

期限到來後  
ノ效力

二、期限到來ノ效果ハ當然且ツ物權的ナリ。是條件成就ノ效果ニ同シ。然レ共期限ハ條件ト異リテ絶體ニ遡及效ヲ生スルコトナシ。

##### 第二目 期限到來前ノ效力

一、期限ハ條件ト異ナリテ其到來スルコトノ確定セルモノナリ。故ニ當事者カ期限附法律行為ニ付キ其期限到來前ニ於テ有スル期待ハ條件附法律行為ノ場合ニ比シテ遙ニ確實ナルモノト謂ハサルヘカラス。以是、條件附法律行為ニ基ク條件附權利義務カ保護セラルヘクシテ、期限附法律行為ニ基ク期限附權利義務モ亦當然ニ之ヲ保護セサルヘカラス。唯民法カ其規定ヲ缺キタル所以ノモノハ、履行ヲ停止スル始期附法律行為ニノミ着眼シタリシカ故ニ所謂期待權保護ノ問題ヲ生セサリシニ因ルナリ。惟フニ此場合ニ於テハ唯債務ノ履行ハ停止セラレタリト雖モ、當事者間ニ於ケル權利義務即チ債權債務ハ既ニ當初ヨリ成立セルモノナルカ故ニ固ヨリ之ヲ侵害スルコトヲ得ス、又ハ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保ヲ爲シ得ルコト勿論ナレハナリ。

二、期限附權利義務ヲ認ムヘキ場合次ノ如シ。

1、始期附法律行為ニシテ其行為ノ效力ノ發生自體ヲ停止スル場合ニ於テハ期限ノ到來スル迄其法律行為ノ效力生セス。隨ツテ其行為固有ノ權利義務ヲ成立スルコトナシ。然レ共當事者ハ

期限到來前  
ノ效力

一旦期限到來セハ當然ニ其權利義務ノ主體トナリ得ルモノナルカ故ニ此場合ニ於テモ亦當事者ニ期待ノ生スルハ蓋シ停止條件ノ場合ニ於ケルト異ルコトナシ。即チ期待シタル期限附權利義務ヲ認メテ第一二八條及ヒ第一二九條ノ準用ニ依リ之ヲ保護セサルヘカラス。

2、終期附法律行為ニ在リテハ其終期ノ到來ニ因リテ既ニ發生シタル其效力ヲ消滅セシムルコト猶ホ解除條件ノ成就シタル場合ノ如シ。故ニ解除條件ノ成否未定ノ間ニ於ケルト同シク終期ノ到來前ニ於テモ亦原權利者（權利ノ復歸スヘキ者）ノ期待權ヲ認メサルヘカラス。

第五項 期限ノ利益及ヒ其喪失

一、期限ノ利益トハ期限ニ因リテ法律行為ノ效力カ制限セラルルカ爲メニ受クヘキ利益ヲ謂フ。何人ニ期限ノ利益存スルヤハ期限附法律行為ノ性質及ヒ當事者ノ意思解釋ニ依リテ之ヲ決スヘシ。

【註】通常無償寄託ニ於ケル期限ノ利益ハ債權者ニ存シ、利息附消費貸借ニ於ケル期限ノ利益ハ債權者及ヒ債務者ノ双方ニ存ス。故ニ後者ノ場合ニ於テ債務者ハ期限前ニ其辨濟ヲ請求セラルルコトナキト同時ニ債權者モ亦期限前ノ辨濟ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ルナリ。

然レ共時アリテ法律行為ノ性質又ハ當事者ノ意思解釋ニ依ルモ何人カ期限ノ利益ヲ有スルヤ

期限ノ利益及ヒ其喪失

ニ付キ分明ナラサルコトアラン。民法ハ之カ爲メニ「期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス」ト規定セリ（第一三六條第一項）。

【註】推定規定ナルカ故ニ反證ヲ擧ケテ之ヲ覆スコトヲ得ヘク、又「債務者ノ利益ノ爲メニ」ト規定スルカ故ニ、債權行為以外ノ法律行為ニ適用ナキハ條文上明カナリ。

二、期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得（第一三六條第二項）。

茲ニ期限利益ノ拋棄トハ期限ノ未タ到來セサルニモ拘ラス、其到來シタルト同一ノ法律效果ヲ發生セシムルコトヲ内容トスル法律行為ニシテ、期限ノ利益ヲ有スル者カ其相手方ニ對シテ爲ス單獨行為ヲ謂フ。

1、期限ノ利益ハソカ當事者ノ一方ニノミ在ルトキ其當事者ハ一方的意思表示ニヨリテ之ヲ拋棄スルコトヲ得。但シ之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス（第一三六條第二項但書）。

2、期限ノ利益カ當事者ノ双方ニ在ルトキハ双方合意ニ依ルノ外孰レノ當事者モ單獨ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス。

【註】但シ此場合ニ於テ第一三六條第二項ノ規定ニ依リ相手方ノ蒙ルヘキ損害ヲ賠償シテ一方的ニ尙ホ其期限利益ヲ拋棄スルコトヲ得トノ學說アリ。然レ共第一三六條第二項ノ規定ハ同條第一項トノ對照上、期限利益カ専ラ當事者ノ一方ニノミ存スル場合ニ關シ、而カモ當事者カ其當然ノ權利ヲ行フニ付テモ尙ホ且ツ

期限利益ノ拋棄



之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトナカラシメントスル法意ナリト之ヲ解スルカ故ニ、吾人ハ此學說ニ從フコトヲ得ス。

期限利益ノ喪失

三、期限ノ利益ヲ有スル債務者ハ左ノ事由アルトキ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス。之ヲ期限利益ノ喪失ト謂フ（第二三七條）。蓋シ債務者ニ此等ノ事由アルトキハ債務者ノ財産上ニ於ケル信用著シク失墜スルカ故ニ、債權者ヲシテ期限ノ到來スル迄尙ホ其履行ノ請求ヲ爲スコト能ハサラシメンカ、債權者ノ利益ハ之カ爲メ不當ニ侵害セラルルノ虞アレハナリ。

- 1、債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ（破産法第一七條）。
- 2、債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ。

【註】1、毀滅又ハ減少ニ付テハ債務者ノ行爲ニ出テタルモノナレハ足り、其行爲カ故意又ハ過失ニ出タルモノナルコトヲ要セス。條文上之ヲ以テ不法行爲トセサレハナリ。

【註】2、茲ニ所謂擔保ヲ物の擔保ニ限ルトノ學說アレ共、保證人ヲ殺害又ハ逃亡セシムルコトモ亦擔保ノ効力ヲ減少セシムルモノナルカ故ニ吾人ハ此說ヲ採ラス。

- 3、債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ。

其他期限利益ノ喪失ニ付キ當事者間ニ特約アルトキハ固ヨリ之ニ從フヘキモノトス。

【註】例ヘハ分割支拂ノ場合ニ於テ一回ニテモ不拂スルトキハ期限ノ利益ヲ失フト約シタル場合ノ如シ。

## 第四章 期間

### 第一節 期間ノ意義

期間ノ意義

一、期間 (Fristen) トハ一定ノ時點 (Zeitpunkt) ヲ起點トシテ他ノ時點ニ至ル迄ノ時ノ經過ヲ謂フ。

期間ノ種類

二、期間ニ法定期間、裁定期間及ヒ約定期間ノ別アリ。法定期間トハ法令ノ定ムル期間ニシテ民法第三條、第三〇條、第四五條、第五一條、第一六二條ノ如キヲ謂ヒ、裁定期間トハ裁判所ノ定ムル期間ニシテ民法第一九六條、第一〇一七條ノ如キヲ謂フ。又約定期間トハ當事者ノ定ムル期間ニシテ第一九條、第一一四條、第一三五條ノ如キ是ナリ。此等期間ノ計算法ニ付テハ特別ノ定アルトキハ之ニ從ヒ、モシ然ラサルトキハ總則第五章ノ一般原則ニ依ルヘキモノトス。

三、期間ハ法律效果ト重要ナル關係ヲ有スルコトアリ。例ヘハ行爲能力カ一定期間ノ經過ニ因リ、又權利ノ得喪變更カ一定期間一定ノ事實狀態ノ存續スルコトニ因リテ發生スルカ如キ是ナリ。

期間ト法律效果

期間ハ法律  
事實ナリ  
期間ハ期日  
ト異ル

四、期間ハ法律事實ナリ。私權ノ得喪變更ヲ生スル原因ノ一ナレハナリ。  
五、期間ハ期日ト異ル。蓋シ期日ハ時點 (Zeitpunkt) ヲ稱シ、法律上長サノ觀念ナシ。故ニ不可分ナリ。反之、期間ハ一定ノ時點ヨリ他ノ時點ニ至ル迄ノ經過ヲ謂フ。隨ツテ法律上常ニ時ノ長サヲ意味ス。期間カ期日ト異リテ可分ヲ可能トスルハ之カ爲メナリ。

### 第二節 期間ノ計算法

期間ノ計算  
法

#### 一、計算法ノ種類

期間ノ計算法ニ自然的計算法ト曆法的計算法トノ二種アリ。前者ハ即時ヨリ起算シテ日、時、分、秒ノ端數ニ至ル迄精密ニ之ヲ計算スルヲ謂ヒ、後者ハ曆ニ從ヒ曆法上ノ單位即チ日、週、月、年ヲ單位トシテ之ヲ計算スルモノヲ謂フ。故ニ中間ノ時、分、秒ノ如キハ之ヲ精算セス。我民法ハ原則トシテ曆法的計算法ニ依ル。但シ時ヲ以テ期間ヲ定メタルトキニ限り自然的計算法ニ依レリ。

【註】兩者ハ一長一短アルヲ免レス。即チ自然的計算法ハ瞬間ヲ以テ其單位トスルカ故ニ頗ル精密ナレ共簡便ナラス。曆法的計算法ハ精密ナラサレトモ簡便ナリ。故ニ前者ハ長期ノ計算ニ適セスシテ取引上不便ナレ共、後者ハ之ニ適シテ取引上便利ナリ。

時ヲ以テ定  
メタル期間  
ノ計算法

#### 二、時ヲ以テ定メタル期間ノ計算法

期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス (第一三九條)。例ヘハ本日午前八時ヨリ三時間ト稱セハ其瞬間ヨリ之ヲ起算シテ午前十一時マテヲ其期間トナスカ如シ。

#### 三、日、週、月又ハ年ヲ以テ定メタル期間ノ計算法

1、起算點 起算日ハ其翌日トス (第一四〇條)。端數ノ初日ハ之ヲ算入セサレハナリ。隨ツテ其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラス (第一四〇條但書)。

【註】本日午前十時ヨリ向フ十日間ト定メタル時ハ明日ノ午前零時ヨリ計算スルカ如シ。之ヲ延長的計算法ト謂フ。

2、滿了點 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス (第一四一條)。即チ末日ノ午後十二時ヲ以テ滿了點ト爲ス。但シ期間ノ末日カ大祭日、日曜日、其他ノ休日ニ當リタルトキハ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限り期間ハ其翌日ヲ以テ滿了トス (第一四二條)。

【註】茲ニ慣習トハ事實タル慣習アレハ足り、又必ズシモ全國ニ通スルモノタルコトヲ要セス。更ニ第九二條ニ謂フカ如ク當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキモノナルコトヲ要セサルナリ。

3、末日ノ計算法 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス (第

日、週、月又  
ハ年ヲ以テ  
定メタル期  
間ノ計算法

一四三條第一項。故ニ曆ニ從ヒテ之ヲ一月ト爲ストキハ其大小ヲ問ハス之ヲ一月ト爲シ、又曆ニ從ヒテ之ヲ一年ト爲ストキハ其平閏ヲ問ハス之ヲ一年トスルナリ。随ツテ

a、週、月、又ハ年ノ始ヨリ起算スル場合例ヘハ月ノ始ナル一月一日ヨリ起算シテ向フ六ヶ月トイフトキハ之ヲ日數ニ換算セス、又其間ニ於ケル月ノ大小、若クハ其年ノ平閏ヲ問ハス六月ノ末日ヲ以テ其期間ノ滿了トナス。

【註】此場合ニ於テ若シ期間ヲ日數ニ換算スルトセハ一ヶ月自體ノ日數カ既ニ問題トナルヘシ。蓋シ月ニ大  
小アリ、年ニ平閏アレハナリ。

b、週、月、又ハ年ノ始ヨリ起算セサル場合。即チ其中途ヨリ起算シタル場合ニ於テハ其日ノ翌日ヲ以テ起算日トスレ共、其日ノ端數ヲ期間ニ算入スルハ却ツテ當事者ノ意思ニ適シ且ツ取引上便宜ナルカ故ニ之ヲ算入ス。随ツテ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應答スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルモノトセリ(第一四三條第二項)。例ヘハ一月十日ニ於テ向フ五ヶ月トイフ時ハ一月十一日ヨリ起算シ其起算日ニ應答スル六月十一日ノ前日即チ六月十日ヲ以テ滿了ト爲スカ如キ是ナリ。但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應答日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿期日トス。例ヘハ一月三十日ニ於テ向フ一ヶ月トイフトキハ一月三十一

日ヨリ起算シ、二月ニハ其應當日タル三十一日ナキカ故ニ年ノ平閏ニ依リ二十八日又ハ二十九日ヲ以テ滿了トナスカ如シ。

【註】應當日トハ起算日ト數又ハ名稱ヲ同シクスル日ノ謂ナリ。

## 第五章 時 效

### 第一節 總 說

#### 第一款 時效ノ意義

時效ノ意義

一定期間ノ經過スルコトヲ要ス

事實狀態ノ

時效 (Prescription ; Verjährung) トハ一定ノ期間一定ノ事實狀態ノ繼續スルコトニ因リテ權利ノ取得又ハ消滅ノ效果ヲ生スル法律要件ヲ謂フ。

1、時效ハ必ス一定期間ノ經過スルコトヲ要ス。其期間ノ長短ハ時效ノ種類ニ依リ法律之ヲ定ム。故ニ時ノ經過ヲ必要トセサル時效ナシ。民法第一九二條謂フ所ノ動產物權ノ即時取得ハ此意味ニ於テ時效ト謂フヲ得ス。時ノ經過ヲ必要トセサレハナリ。

2、一定ノ事實狀態ノ繼續スルコトヲ要ス。故ニ一定期間ノ經過スルコトアルモ其期間内一定

繼續スルコ  
トヲ要ス

時効ハ法律  
要件ナリ

時効ニ因ル  
法律上ノ效  
果

第五章 時効 時効ノ意義

四〇四

ノ事實狀態（占有、準占有、又ハ權利ノ不行使）ノ繼續スルコトナケレハ時効ハ成立スルコトナシ。換言セハ事實狀態カ時ノ經過ト結合シテ、本來ノ法的秩序ニ對抗シ得ルカト迄ナルコトヲ要ス。時効ノ特質ハ實ニ茲ニ在リ。

3、時効ハ法律要件ナリ。之カ爲メニ民法上權利ノ取得又ハ消滅ヲ結果スレハナリ（第一六二條以下、第一六七條以下）。

4、時効ニ因ル法律上ノ效果ニ付キ研究ヲ要スヘキモノアリ。次ノ如シ。

a、時効ノ效果タル權利ノ得喪ハ當然ニ生ス。茲ニ當然トハ時効完成スレハ他ニ何等ノ事實ヲ要セスシテ權利ノ取得又ハ消滅ノ效果ヲ生スルヲ謂フ。即チ唯時効ノ完成アレハ足り、當事者カ之ヲ知ル否ト問ハス、當事者カ時効ノ利益ヲ受クヘキ意思ヲ有スルヤ否ヤモ亦之ヲ問ハサルナリ。

【註】我民法上時効ハ權利ノ取得又ハ消滅ノ原因ニシテ、權利ノ得喪ヲ推定スルモノニ非ス、請求權ニ對スル抗辯權ヲ生セシムルニモ亦非サルナリ。是民法カ其條規ニ於テ「權利ヲ取得ス」（第一六二條以下）ト謂ヒ、又「權利ヲ消滅ス」（第一六七條以下）ト謂フ所以ナリ。

b、時効ニ因ル法律上ノ效果ハ相對的ナリ。

時効ニ因ル權利ノ得喪ハ時効ノ完成ニ因リテ當然ニ發生スレ共、其恩惠ニ浴スト否トハ時効

ノ利益ヲ受クヘキ當事者ノ自由ナリ。蓋シ何人モ受益ヲ強要セラルルコトナケレハナリ。故ニ時効ニ因リテ生シタル權利ノ取得又ハ消滅ノ效果ハ當事者ノ援用ニ因リテ之ヲ確定スルコトヲ得ヘク、又不援用ニ因リテ初ヨリ之ヲ發生セサリシモノト爲スコトヲ得ヘシ。以是、時効ノ效果ハ絶體的ニ非スシテ寧ロ之ヲ相對的ナリト謂フヘシ。

時効ノ效果ハ相對的ナルカ故ニ當事者ハ完成シタル時効ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ得ヘク、又當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得サルナリ（第一四五條）。

5、時効（消滅時効）ハ除斥期間又ハ豫定期間（第一九三條、第二三四條第二項、第五六四條、第五六六條第三項、第八一六條等）ト異ル。蓋シ消滅時効ハ權利カ一定期間行使セラレサリシコトニ因リテ消滅スルモノナレ共、所謂除斥期間ハ權利カ法律ニ定メタル一定期間ノ經過ニ因リテ當然ニ消滅スル場合ヲ謂ヘハナリ。故ニ除斥期間ニハ時効ノ如ク其中斷又ハ停止ナク、隨ツテ其權利ハ豫定期間ノ經過ニ因リテ絶體ニ消滅シ、決シテ當事者ノ行爲（不援用、拋棄）ニ因リテ之ヲ如何トモナスコト能ハス。又除斥期間ハ裁判所其職權ヲ以テ之ヲ調査スルコトヲ得レ共、時効ヲ理由スル裁判ハ當事者ノ援用ヲ俟ツニ非ラサレハ裁判所自ラ進ンテ之ヲ爲スコト能ハサルナリ。

【註】一定ノ期間カ時効期間ナリヤ、除斥期間ナリヤニ付キ民法ハ其條規ニ於テ「時効ニ因リ」トノ明文ヲ

時効ト除斥  
期間

設ケテ之ヲ區別セリ。

6、時效ハ原則トシテ財產權ノ取得又ハ消滅ニノミ關ス。故ニ身分權上ノ權利義務ノ如キハソガ財產權的性質ヲ有スルモノ（第七五九條第三項、第九六六條、第一〇二二條第二項）ノ外時效ニ罹ルルコトナシ。

第二款 時效制度ノ根據

1、時效ハ真正ノ權利者ニ非サル者ヲシテ真正ノ權利者カ繼續シテ有スヘカリシ權利ヲ取得セシメ、又本來ノ義務者ヲシテ當然ニ負擔スヘカリシ其義務ヲ免ルルニ至ラシム。故ニ時效ノ制度ハ特別ノ理由存スルニ非サレハ之ヲ容認スルコト能ハサルナリ。學說中「權利ノ上ニ眠レル者ハ法律ノ保護ニ値セス」トノ理由ヲ以テ之ヲ説ク者アレ共、時效制度ノ附隨的理由トシテ之ヲ認ムルノ外探ルニ足ラサルヘシ。蓋シ時效制度ハ義務者ヲ單ニ保護救済スルノ法意ニ止マラサルノミナラス、又權利者ノ怠慢ニ對スル民事罪ニモ非サレハナリ。果シテ然リトセハ時效制度ノ根據如何。吾人ハ之ヲ解シテ法律カ社會生活ノ安全ト秩序ノ維持ヲ圖ランカ爲メ永續シタル事實狀態ヲ尊重シテ現在ニ於ケル其事實的秩序ヲ化シテ之ヲ法律的秩序ト爲スニ在リト思惟ス。惟フニ權利ハ上述ノ如ク法的力 (Rechtliche Macht) ナルカ故ニ權利ニ反スル事實狀態ハ之ニ對抗スル

時效制度ノ理由

時效ニ關スル法規ハ強行性ヲ有ス

コトヲ得ス。然レ共故障ナク永續シタル事實狀態ハ何人モ之ヲ適法ノモノトシテ信賴シ、隨ツテ之ヲ基礎トシテ幾多ノ法律關係又ハ事實關係ヲ設定スルコトアルヘシ。斯ノ如キ關係ハ或ハ本來存在スヘカラサリシモノナリトスルモ、ソカ既ニ社會的秩序トモナリテ多數人ノ生活關係カ之ヲ基礎トスルニ至リタランニハ、最早古キ證據材料ニ基キテコノ事實的秩序ヲ轉覆シ、以テ原權利者ノ權利ヲ認め、又ハ存在セサルモノト信シタル義務ヲ負擔セシムヘキニ非サルナリ。是法律カ時效制度ヲ設ケテ永續シタル事實狀態ヲ尊重スル所以ナリトス。

2、時效ニ關スル法規ハ原則トシテ強行性ヲ有ス。時效制度カ公益即チ社會生活ノ安全ト秩序ノ維持ヲ目的トスルモノナレハナリ。故ニ當事者間ノ特約ヲ以テスルモ其適用ヲ排斥シ、又ハ時效要件、時效期間、時効ノ中斷又ハ停止事由)ヲ變更スルコトヲ得ス。

第三款 時效ノ效力

時效ノ遡及

一、時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ル（第一四四條）。之ヲ時效ノ遡及効ト謂フ。

1、茲ニ起算日トハ時效期間ノ進行ヲ始メタル日ヲ謂フ。故ニ取得時効ニ在リテハ物ノ占有又ハ權利ノ準占有ヲ始メタル日（第一六二條、第一六三條）ニシテ、消滅時効ニ在リテハ權利ヲ行使ス

ルコトヲ得ヘカリシ日（第一六六條第二項）是ナリ。時効ノ中斷アリタルトキハ中斷後更ニ時効期間ノ進行ヲ始メタル日ヲ以テ起算日トス。

【註】其期間ノ初日カモシ全一日ニ非サルトキハ其翌日ヲ以テ起算日トナス（第一四〇條）。

2、時効ニ遡及効ヲ認メタル所以ハ外ナシ。蓋シ時効完成スルトキハ特定ノ權利ヲ將來ニ向ツテ得喪セシムルハ勿論、更ニ時効期間ノ進行中ニ於ケル事實狀態ヲモ亦之ヲ保護スルニ非サレハ時効制度ノ目的タル社會的秩序ハ之ヲ維持スルコト能ハサレハナリ。其效果次ノ如シ。

a、時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ハ時効期間内ニ收得シタル果實ヲ返還スルコトヲ要セス、又時効ニ因リテ債務ヲ免レタルモノハ起算日後完成ニ至ル迄ノ利息ヲ支拂フコトヲ要セス。  
b、取得時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者カ時効期間中ニ其權利ニ付キ爲シタル處分ハ時効ノ完成ニ因リテ遡及的ニ有效トナル。

c、時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ハ時効ノ起算日以後ノ不法行為者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得。故ニ原權利者ニ於テ既ニ其賠償ヲ受ケタル後ナルトキハ更ニ其者ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ。

d、消滅時効ニ因リテ權利ヲ喪失シタル者カ其起算日以後ニ爲シタル處分行爲ハ時効ノ完成ニ

因リテ遡及的ニ其效力ヲ喪フ。

e、取得時効ニ因ル不動産物權ノ取得モ亦登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス。

【註】登記ヲ要スルヤ否ヤニ付キ學說上議論分ル。然レ共第一七七條ハ物權取得ノ原因ニ付キ何等之ヲ限定セサルカ故ニ時効取得カ所謂原始的取得ナルヲ理由トシテ第三者ニ對抗スルニ其登記ヲ要セスト爲スハ當ラス。

f、時効ノ遡及効ニ一ノ例外アリ。第五〇八條之ヲ規定ス。

二、時効ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ス（第一四五條）。

1、時効ノ援用トハ時効ノ完成ニ因ル利益ヲ主張スル意思表示ヲ謂フ。法ハ何人ニ對シテモ受益ヲ強制セサルカ故ニ、當事者カ時効ノ完成ニ因ル利益ヲ享受センカ爲メニハ先ツ之ヲ援用スルコトヲ要ス。

【註】時効ノ援用ハ第一四五條ノ文理上一見裁判所ノ權限ヲ制限スル手續法上ノ規定ノ如クナレ共（通説）、吾人ハ之ヲ以テ時効ノ効力發生ノ實體的要件ト解スルコト前述セシカ如シ。

2、時効ノ援用ハ裁判上ニ於テ之ヲ爲スト、裁判外ニ於テ之ヲ爲ストヲ問ハサルナリ。

【註】通説ハ第一四五條ヲ以テ裁判所ノ職權ヲ制限スル規定ト見ルカ故ニ、時効ノ援用ハ唯裁判上ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得ト爲ス。然レ共元來當事者ニ時効ノ援用ヲ認メタル立法上ノ理由ハ時効ノ完成ニ因ル利益ヲ受クヘキヤ否ヤヲ當事者ノ良心ニ一任シタルニ外ナラサルヲ以テ、現實ニ之ヲ援用スルニ付テモ亦當事者ノ意思ニ之ヲ任スヘク、隨ツテ必スシモ裁判上ニ於テ之ヲ爲スヲ要求スヘキニ非サルナリ。

3、時効援用ノ時期ニ關シテハ法律上其制限ヲ見ス。然レ共第二審ノ口頭辯論終結迄ニハ遅クトモ之ヲ主張セサルヘカラス。蓋シ時効ノ援用ハ事實上ノ主張ヲ其内容トスルモノナルカ故ニ法律適用ノ當否ヲ審査スル上告審ニ於テ之ヲ主張スヘキニ非サレハナリ。

4、時効ノ援用ヲ爲シ得ル者ハ時効ノ當事者是ナリ。而シテ茲ニ當事者トハ時効ノ完成ニ因リテ直接ニ利益ヲ享受スル者ヲ謂フ。即チ直接ニ權利ヲ取得シ、又ハ義務ヲ免ルル者ヲ指稱ス。故ニ主タル受益者タル債務者ハ勿論、連帶債務者(第四三九條)、連帶保證人(第四五八條)、保證人等ノ如キ從タル受益者モ亦之ニ屬ス。

【註】1、時効ノ完成ニ因リテ間接ニ利益ヲ受クル者ハ茲ニ所謂當事者ニ屬セス。寧ロ之ヲ第三者ト謂フヲ相當トス。例ヘハ時効ニ因リテ土地ノ所有權ヲ取得スヘキ者ヨリ地上權又ハ永小作權ノ設定ヲ受ケタル者ノ如キ是ナリ。

【註】2、時効ニ因リテ不利益ヲ受クル者モ亦當事者ニ屬セス。故ニ債權者カ假令時効ヲ援用スルモ債務者ニ於テ之ヲ援用セサル限り裁判所ハ之ヲ以テ裁判ノ資料ト爲スコトヲ得ス。

【註】3、當事者ノ債權者ハ自己固有ノ援用權ヲ有セスト雖モ、第四二三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代リ其援用權ヲ行使スルコトヲ得。

5、時効ノ完成ニ因リテ直接ニ利益ヲ受クヘキ者數人アル場合ニ於テ其中ノ一人ノ爲シタル時効ノ援用又ハ不援用ハ他ノ者ニ對シテ如何ナル效力アリヤ。一當事者ノ爲シタル時効ノ援用又ハ不援用ハ他ノ當事者ニ何等其影響ヲ及ホスコトナシト之ヲ解ス。故ニ當事者ハ各獨立シテ時効ヲ援用シ得ヘク、裁判所ハ其援用ヲ爲シタル當事者ノ直接ニ受クヘキ利益ノ存スル部分ニ限り時効ニ因リ裁判ヲ爲スコトヲ得ルナリ。

【註】故ニ主タル債務者カ援用權ヲ拋棄シタル場合ニ於テモ尙從タル債務者カ之ヲ援用スルコトヲ妨ケス。

#### 第四款 時効ノ拋棄

事前ノ拋棄

時効ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス(第一四六條)。

一、茲ニ豫メ時効ノ利益ヲ拋棄ストハ豫メ時効ノ援用權ヲ拋棄スルヲ謂フ。即チ取得時効ニ在リテハ時効完成スルモ之ニ因ル權利ヲ取得セサル意思ヲ豫メ表示シ、消滅時効ニ在リテハ時効ノ完成ニ因リテ消滅スル相手方ノ權利ヲ消滅セシメス隨ツテ自己ノ義務ハ尙ホ消滅セサリシモノトシテ之ヲ履行スル意思ヲ豫メ表示スルヲ謂フナリ。法律カ事前ニ於ケル此拋棄ヲ禁シタル

所以ノモノハ外ナシ。惟フニ時效ハ公益制度ナリ。随ツテ時效ニ關スル規定ハ固ヨリ強行性ヲ有ス。故ニ當事者ノ意思ニ依リテ其適用ヲ排斥スルコト能ハサルハ勿論、モシ夫レ事前ニ於ケル時効利益ノ拋棄ヲ許サンカ、債權者カ窮境ニ在ル債務者ヲ壓迫シテ遂ニ時効制度ヲ設ケタル目的ヲ達成スルコト能ハサルニ至ラシムレハナリ。

【註】時効ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得スト雖モ、既ニ經過セル期間ノ利益ヲ拋棄スルハ固ヨリ之ヲ妨ケサルナリ。故ニ此場合ニ於ケル拋棄ハ承認ト同シク時効中斷ノ效力ヲ生スヘシ。

事後ノ拋棄

二、右ノ禁止ノ裏面解釋トシテ時効完成後ニ於ケル時効利益ノ拋棄ハ之ヲ有效ナルモノト解ス。通説ナリ。

1、時効完成後ニ於ケル拋棄ノ性質ニ關シテハ學說分ル。多數說ハ之ヲ以テ一種ノ贈與ナリトスレ共、吾人ハ之ヲ解シテ時効完成スルモ尙ホ時効ノ完成セサル状態ヲ維持センコトヲ目的トスル相手方アル單獨行為ナリトス。

2、拋棄ハ單獨行為ナルカ故ニ其性質上相手方ノ承諾ヲ必要トセス。

3、拋棄ノ能力及ヒ權限ニ關シテハ民法上特則ナシ。然レ共拋棄者ニハ固ヨリ其處分行爲能力又ハ其權限ヲ有スルコトヲ必要ト解ス。蓋シ時効ノ完成ニ因リテ既ニ取得スヘカリシ權利ヲ尙

ホ取得セサルモノト爲シ、又ハ既ニ消滅スヘカリシ義務ヲ尙ホ依然トシテ消滅セサルモノト爲スカ如キハ當ニ之ヲ處分行爲ト解スヘキモノナレハナリ。

4、時効拋棄ノ效力ハ時効完成ニ因リテ生シタル状態ヲ時効完成前ノ状態ニ復歸セシムルニ在リ。故ニ權利者ハ依然トシテ權利者タルヘク、義務者ハ尙ホ依然トシテ義務者タルヘシ。

### 第五款 時効ノ中斷

中斷ノ意義

一、時効ノ中斷 (Unterbrechung ; interruption) トハ一定ノ事由ニ因リテ既ニ進行ヲ開始シタル時効ノ期間ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ謂フ。

中斷事由

二、時効中斷ノ事由ニ二種アリ。一ハ法定ノ中斷事由ニシテ、他ハ自然ノ中斷事由是ナリ。

【註】自然ノ中斷事由トハ取得時効ノ客觀的要素タル占有又ハ準占有ノ事實自體カ消滅スルヲ謂フ。詳シクハ後ニ之ヲ説カン。

法定中斷ノ事由ニ二種アリ。次ノ如シ。

請求

1、請求

茲ニ所謂請求トハ時効ニ因リテ消滅スヘキ權利ヲ行使スル行為ヲ謂フ。其裁判上ニ於テ之ヲ

第五章 時効 時効ノ中斷



爲スト、其裁判外ニ於テ之ヲ爲ストヲ問ハサルナリ。然レ共孰レモ皆時效中斷ノ效力ヲ生ス。蓋シ時效制度ノ要件タル事實狀態ハ之カ爲メニ欠缺スルニ至レハナリ。

民法ハ請求ノ方法トシテ次ノ六種ヲ明示セリ。

裁判上ノ請求

a、裁判上ノ請求（第一四九條）

裁判上ノ請求トハ訴ノ提起ニ依リテ爲ス請求ヲ謂フ。訴ノ種類ハ之ヲ問ハス。故ニ民事訴訟法上其給付ノ訴タルト、確認ノ訴タルト、形成ノ訴タルト、本訴タルト、反訴タルト、刑事訴訟法上所謂附帶私訴タルトヲ問ハサルナリ。

裁判上ノ請求ハ訴ノ提起アレハ時效中斷ノ效力ヲ生シ、訴狀ノ送達ハ之ヲ必要トスルコトナシ（改正民法第二三五條）。蓋シ其起訴自體カ既ニ權利ノ行使ト解シ得ルヲ以テナリ。然レ共其訴ヲ取下ケ、又ハ實體上又ハ形式上ノ理由ニ因リテ其訴カ却下セラレタルトキハ固ヨリ時效中斷ノ效力ヲ發生スルコトナシ。第一四九條ニ所謂請求ナケレハナリ。

【註】「取下ケ」ハ原告ノ自ら取下ケタル場合ト、取下ケアリタルモノト看做サルル場合トヲ含ム（改正民法第二三八條）。

支拂命令

b、支拂命令（第一五〇條）

支拂命令トハ金錢其他ノ代替物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者カ通常ノ訴訟手續ニ依ラス迅速ニ其權利ヲ行使センカ爲メ區裁判所ニ申請シテ債務者ニ對シ發セシムル決定ヲ謂フ。（改正民法第四三〇條以下）。

支拂命令ニ因ル時效中斷ノ效力ハ其申請ノ時ニ生シ、其送達ノ時ニ生スルモノニ非ス。蓋シ支拂命令ノ申請モ亦一種ノ裁判上ノ請求ニ外ナラサルカ故ニ、訴ノ提起ヲ以テスル裁判上ノ請求ト之ヲ區別スルノ理由ヲ見サレハナリ。

然レ共支拂命令ハ債權者カ法定ノ期間内ニ假執行ノ申立ヲ爲ササルニ因リ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス（第一五〇條、改正民法第四三九條）。但シ支拂命令ニ對シ債務者ノ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サルルカ故ニ、コノ場合ニ於テハ訴ノ提起トシテ尙ホ時效中斷ノ效力ヲ有スルモノトス（改正民法第四四二條）。

和解ノ爲メニスル呼出

c、和解ノ爲メニスル呼出

民事上ノ争ニ付テ訴ヲ起サントスル者ハ先ツ請求ノ趣旨及原因並争ノ實情ヲ表示シテ相手方

ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得(改正民訴第三五六條)。此申立モ亦權利實行行爲ノ一ナルカ故ニ時效中斷ノ效力ヲ有スルモノトス。然レ共若シ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス(第一五一條前段)。

任意ノ出頭

d、任意出頭

任意出頭トハ當事者雙方カ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ口頭辯論ヲ爲ス場合ヲ謂フ(改正民訴第三五四條)。此場合ニ於テモ若シ和解ノ調ハサルトキハ更ニ一ヶ月以内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス(第一五一條後段)。

破産手續參加

e、破産手續參加

破産手續參加トハ債權者カ破産財團ノ配當ニ加入スル爲メ其債權ヲ裁判所ニ届出ヲ爲スコトヲ謂フ(破産法第二二八條)。此參加モ亦請求ノ一方法トシテ時效中斷ノ效力ヲ生スルモノトス。然レ共債權者カ其參加ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス(第一五二條)。

催告

f、催告

催告トハ債權者カ債務者ニ對シテ其履行ヲ請求スル意思ノ通知ヲ謂フ。其口頭ニ依ルト、書面ニ依ルト、執達吏ニ依ルトヲ問ハサルナリ。但シ茲ニ所謂催告ハ裁判外ニ於ケル權利ノ主張ナルカ故ニ後日ノ爲メ其證據ト爲ルヘキ方式ニ依ルヲ便宜トス。

催告ハ六ヶ月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス(第一五三條)。故ニ此等ノ一ヲ伴ハサル單ナル催告ハ直ニ時效中斷ノ效力ヲ有スルモノト爲スヲ得ス。然レ共催告ハ時效ノ完成ニ近ツキタル際前掲執レカノ權利實行ノ手段ヲ執ルニ必要ナル猶餘ヲ與ヘシムルカ故ニ尙ホ其實益アルモノトス。

2、差押、假差押及ヒ假處分

a、差押トハ確定判決其他ノ債務名義ニ基キテ爲ス強制執行行爲ヲ謂ヒ(民訴五六四條以下)、假差押、假處分トハ共ニ強制執行ノ保全手段トシテ豫メ行フモノヲ謂フ(民訴第七三七條以下)。孰レモ皆有力ナル權利實行行爲ノ一ニ屬シテ時效中斷ノ效力ヲ有スルモノトス。然レ共此等ノ處分カ若シ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リテ取消サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セサルモノトス(第一五四條)。

差押、假差押及ヒ假處分

b、差押、假差押又ハ假處分ハ時効ノ利益ヲ受クル者(例ヘハ債務者)以外ノ者ニ對シテ爲サルル場合アリ。コノ場合ニ於テハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ通知シタル後ニ非サレハ時効中斷ノ効力ヲ生セス(第一五五條)。蓋シモシ爾カセサルトキハ時効ノ中斷アリタルコトヲ知ラサル時効ノ受益者ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルコトアレハナリ。

【註】1、例ヘハ債權者甲カ乙ノ債務ノ擔保トシテ第三者カ提供シタル抵當不動産ヲ差押ヘタルカ如キ場合ニ於テ時効ノ利益ヲ受クヘキ乙ニ對シテ之ヲ通知スルコトヲ要スルカ如シ。

【註】2、時効中斷ノ効力ヲ生スルハ當事者カ此等ノ處分ノ申立ヲ爲シタル時ニ非スシテ國家ノ執行機關カ此等ノ行爲ヲ爲シタル時ナリトス。但シ第一五五條ノ場合ニ於テハ右ノ通知カ受益者ニ到達シタル時ナリト解ス。

3、承認

a、承認トハ時効ノ利益ヲ受クヘキ當事者カ相手方ノ權利ノ存在ヲ是認スルヲ謂フ。

承認ハ新ニ債務ヲ負擔スル意思表示ニ非スシテ自己ニ對スル相手方ノ債權ノ存在ヲ認識スル行爲ナリ。故ニ承認ハ一ノ觀念通知ニシテ法律行爲ニ非ス。

b、承認ハ必ス相手方ニ對シテ之ヲ表示スルコトヲ要ス。然レ共其明示タルト、默示タルト、裁判上タルト、裁判外タルト、口頭タルト、書面タルトヲ問ハサルナリ。擔保ノ提供、一部辨

承認

濟、利息ノ支拂、支拂猶餘ノ懇請、證書ノ書替等ハ通常明示又ハ默示ノ承認トセラル。

c、承認ハ行爲者ニ管理ノ能力又ハ權限アレハ足り、敢テ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス(第一五六條)。蓋シ承認ハ其結果ヨリ之ヲ見レハ時効ヲ中斷シテ取得スヘカリシ權利ヲ取得セシメス、消滅スヘカリシ權利ヲ消滅セシメサルモノナレ共、承認自體ハ其性質上相手方ニ自己ニ對スル債權ノ存在スル事實ヲ承認スルモノニ過キサレハナリ。故ニ禁治產者ハ承認ヲ爲スコトヲ得スト雖モ、準禁治產者、妻、不在者ノ財產管理人、權限ノ定ナキ代理人等ノ如キ管理ノ能力又ハ權限ヲ有スル者ハ單獨ニ承認ヲ爲スコトヲ得。

d、承認ハ時効進行中ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス。蓋シ時効完成後ニ中斷アルコトナク、又時効期間ノ進行前ニ承認ノ存在スルコトナケレハナリ。

【註】時効完成後ニ於ケル債務承認ハ時効ノ完成ヲ知りテ尙ホ且ツ之ヲ爲シタルモノナルトキハ之ヲ時効利益ノ拋棄ト解スヘシ。

三、中斷ノ効力

1、時効中斷ノ効力ハ自然中斷ニ於テハ其中斷カ時効ノ客觀的要素ノ消滅ニ基クカ故ニ絶體的効力ヲ生スレ共、法定中斷ニ於テハ其中斷カ特定人間ノ行爲ニ基クカ故ニ唯相對的効力ヲ生ス

中斷ノ効力

ルニ止マル。随ツテ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ生シ、第三者ニ對スル關係ニ於テハ原則トシテ其影響ヲ及ホスコトナシ。但シ其例外アリ。例ヘハ債權ノ消滅時效ノ中斷（第四三〇條、第四三四條、第四五七條、第四五八條）並ニ共有者ニ對スル時效中斷（第二八四條第二項）ニ於ケル場合ノ如キ是ナリ。前者ハ中斷ノ效力ノ擴張ニシテ、後者ハ中斷ノ效力ノ制限ナリトス。

【註】茲ニ當事者トハ時效中斷ニ關與シタル者ノミヲ謂ヒ、時效當事者ノ總テノ者ヲ包含セス。

2、中斷後ノ時效

中斷サレタル時效ハ中斷事由ノ終了後、再ヒ全期間ノ進行ヲ始ムルモノトス（第一五七條）。然レ共中斷前既ニ經過シタル期間ハ之ニ加算スルコトナキカ故ニ中斷後再ヒ進行スヘキ時效ノ起算點ハ前掲中斷事由終了ノ時ナリトス。

第六款 時效ノ停止

一、時效ノ停止 (Hemmung ; suspension) トハ法律ニ定メタル事實ノ存在スルニ因リテ時效ノ進行ヲ一時休止スルコトヲ謂フ。

時效ノ停止ハ時效完成ノ延期ナリ。法律カ之ヲ規定シタル所以ノモノハ、時效ノ將ニ完成セ

中斷後ノ時  
效

時效ノ停止

ントスルモ其中斷行為ヲ爲スコト能ハス、又中斷スルコトノ甚タ困難ナル事由發生シタルカ如キ場合ニ於テ時效ノ進行ヲ一時中止セシメ、以テ其完成ヲ延期シテ權利者ニ時效中斷又ハ權利實行ノ機會ヲ與ヘントスルニ在ルナリ。換言スレハ時效ノ完成ニ因リテ不利益ヲ蒙ルムヘキ特別ノ者ヲ保護スル趣旨ニ外ナラス。

停止事由

二、時效ノ停止事由ニ四種アリ。次ノ如シ。

1、時效ノ期間滿了前六ヶ月内ニ於テ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セザリシトキ（第一五八條前段）。コノ場合ニ在リテハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ之ニ對シテ時效完成セサルモノトス（第一五八條後段）。蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テハ自ラ權利ヲ實行スルコト殆ント不能ナルガ故ニ時效ノ完成ヲ延期シ、以テ時效ノ完成ニ因ル不利益ヲ蒙ルコトナカラシメタリ。

2、無能力者カ其財産ヲ管理スル父、母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六ヶ月内ハ時效完成セス。妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六ヶ月内亦同シ（第一五九條）。

右孰レノ場合ニ於テモ權利者ハ義務者ニ對シテ特殊ノ關係ニ在ル者ナルカ故ニ其權利ノ行使

ハ事實上困難ナリト謂フヘシ。是時効停止ノ事由トナシタル所以ナリ。

3、相續財産ニ關シテハ相續人ノ確定シ管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六ケ月内ハ時効完成セス（第一六〇條）。蓋シ此等ノ場合ニ在リテハ權利ヲ行使スヘキ者ナク、權利ヲ行使スヘキ相手方モ亦未タ確定セサルカ故ニ相續財産ニ屬スル權利又ハ相續財産ニ對スル權利ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ル迄時効ノ進行ヲ停止セシメタルナリ。

4、時効ノ期間滿了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時効ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨礙ノ止ミタル時ヨリ二週内ハ時効完成セス（第一六一條）。

【註】天災其他避クヘカラサル事變トハ不可抗力ヲ謂フモノトス。故ニ震災、洪水、落雷、暴動、戰爭、裁判事務ノ休止等之ニ屬スルモ、權利者ノ主觀的障礙、例ヘハ傷害、疫病、旅行等ハ之ヲ含マス。

## 第二節 取得時效

### 第一款 取得時効ノ意義

1、取得時効 (Ersitzung; acquisitive prescription) トハ財産權取得ノ原因タル時効ヲ謂フ。換言スレハ一定ノ期間繼續シテ物ヲ占有シ、又ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財産權ヲ行使スル

取得時効ノ  
意義

コトヲ要素トスル法律要件ヲ指稱ス。

2、取得時効ニ因リテ取得スル權利ノ範圍ハ財産權ニ限ル。人格權、身分權ノ如キハ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトナシ。

【註】財産權中尙ホ取得時効ニ罹ラサルモノアリ。後述スヘシ。

3、或者カ取得時効ニ因リテ或權利ヲ取得スルトキハ其反面ニ於テ同權利ノ喪失ヲ結果スヘシ。是一物二主ヲ容レサル原則ニ因ルモノニシテ時効ソノモノノ效果ニ非ス。

### 第二款 所有權ノ取得時効

一、時効ニ因リテ所有權ヲ取得センカ爲メニハ次ノ要件ヲ具備セサルヘカラス。

1、占有

占有 (Poss.) トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルヲ謂フ（第一八〇條）。特ニ次ノ要件ヲ必要トス。

a、所有ノ意思ヲ以テスル占有ナルコトヲ要ス。

茲ニ所有ノ意思ヲ以テスル占有トハ必スシモ自己カ其物ノ所有者ナリトノ信念ヲ以テ物ヲ所持スルノ謂ニ非スシテ、其物ニ付テ所有者ニ非サレハ爲シ得サルカ如キ完全ナル支配ヲ事實上

所有權ノ取  
得時効  
占有

爲スノ意思ヲ以テ物ヲ所持スルヲ謂フナリ。

b、占有ノ平穩ナルコト即チ其占有カ暴行又ハ強迫ニ依リテ開始セラレ、又ハ維持セラルルモノニ非サルコトヲ要ス。

c、占有ノ公然ナルコトヲ要ス。茲ニ占有ノ公然トハ占有者カ利害關係人ニ對シテ殊更ニ其占有ノ事實ヲ隱秘セサルヲ謂フ。但シ其占有物ヲ特ニ衆人ニ公示スルコトヲ要セス。

【註】占有ノ平穩及ヒ公然ナルコトハ限時的ニシテ且ツ相對的ナリ。

茲ニ現時的トハ例ヘバ其占有カ所謂強暴及ヒ隱秘ノ瑕疵ヲ帶ヒルモ、其瑕疵ハ唯其時ニ於テノミ(限時的)瑕疵アルニ止マリ、其瑕疵カ止ムトキハ即チ瑕疵ナキ占有トナルヲ謂フ。故ニ占有ノ初メ此等ノ瑕疵ヲ帶ヒルモ其後平穩且ツ公然ノ占有トナルトキハ其時ヨリ取得時効ノ要素タル占有トナルナリ。又相對的トハ例ヘハ時効ノ完成ニ因リテ直接不利益ヲ蒙ルヘキ者(所有者)ニ對シテ平穩且ツ公然ナレハ足り、其他ノ人ニ對スル關係ニ於テハ假令強暴、且ツ隱秘ノ瑕疵ヲ有スルモ何等其時効ノ完成ニ影響ナキカ如キヲ謂フナリ。

d、他人ノ物ノ占有ナルコトヲ要ス。自己ノ物ニ付キ更ニ時効ニ因リテ所有權ヲ取得スト謂フカ如キハ論理上既ニ矛盾ナレハナリ。又「他人ノ物」ト規定スルカ故ニ無主物ニ付テ時効ノ適用アルナシ。

公物ノ時効取得

【註】公物ニ取得時効ヲ認ムヘキヤ。學說上議論アリ。然レ共理論上之ヲ積極ニ解スルヲ正當ト信ス。蓋シ

取得時効ハ權利ノ取得ヲ以テ其内容トスレ共、其權利ノ主體カ公法人ナリヤ私人ナリヤノ如キハ之ヲ別トサルノミナラス、民法第一九二條ニ所謂「他人ノ物」トハ自己ノ物及ヒ無主ノ物以外ノ物ヲ指稱スル觀念ナレハナリ。尤モ公物ハ其公用ノ廢止セラレサル限り依然トシテ公共ノ目的ニ供セラルルモノナルカ故ニ其所有權取得者ハ結局所謂空權ヲ得タルニ過キサルヘシ。

2、一定期間ノ經過スルコトヲ要ス。其長短ハ占有者ノ善意ナルト惡意ナルトニ因リテ異ル。

a、他ノ要件ヲ具備シタル不動産占有者カ善意無過失ナルトキハ十年ヲ以テ時効期間トス。惡意有過失ナルトキハ其占有ノ不動産タルト不動産タルトヲ問ハス、二十年ヲ以テ時効期間トス

(第一六二條)。

一定期間ノ經過スルコトヲ要ス

【註】民法ハ動産ニ付キ善意ノ取得時効ヲ設ケス。是動産ニ付テハ第一九二條謂フ所ノ即時取得ノ制度アルニ因ルモノナルヘシ。然レ共即時取得ガモシ所謂權原(權利取得ノ原因タル法律行為、例ヘハ賣買ニ因リテ所有權ヲ取得シタルトキハ其賣買ナル法律行為カ茲ニ所謂權原ナルカ如シ)ニ基クコトヲ要スト解スルニ於テハ(通説ハ權原ニ基クヲ要セスト解ス)、權原ニ基カスシテ占有ヲ開始シ、而カモ善意無過失ナルトキハ動産ニ付テモ亦善意ノ取得時効ヲ認ムルノ要アルニ非スヤ。而シテ時効期間ハ十年ヲ以テ相當トス。蓋シ不動産ノ時効期間カ既二十年ナルカ故ニ(第一六二條第二項)動産ノ時効期間カ更ニ之ヨリ長カルヘキ謂レナケレハナリ。

b、善意トハ自己ニ所有權アリト信スルヲ謂ヒ、無過失トハ占有者カ右ノ所有權アリト信スルニ付キ取引觀念上非難サルヘキ不注意ナカリシヲ謂フ。

c、善意無過失ノ要件ハ占有ノ初ニ存スルコトヲ要シ、且ツ之ヲ以テ足ル。故ニ占有ノ當初其

善意且ツ無過失ナルトキハ其後惡意又ハ有過失ニ變スルモ之カ爲メニ時効期間ニ其影響ヲ及ホスコトナク、又占有ノ承繼アリタル場合ニ於テ前主カ惡意ナルモ自己ノ善意占有ノミヲ主張スルコトヲ得ヘシ。

舉證責任

二、舉證ノ責任

占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定セラレ、又前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定セラレ（第一八六條）。故ニ不繼續又ハ過失、強暴、隱秘ノ瑕疵ヲ主張スル者アルトキハ主張者ニ於テ其舉證ノ責任ヲ負ハサルヘカラス。然レ共民法ハ無過失ヲ推定セサルカ故ニ無過失ノ事實ハ時効ノ利益ヲ主張スル者ニ於テ之ヲ立證セサルヘカラス。

三、取得時効ノ中斷

取得時効ノ中斷

取得時効ハ占有ノ喪失即チ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキ中斷セラル（第一六四條）。之ヲ自然中斷ト謂フ。

占有ノ喪失ハ時効ノ客觀的要素ヲ欠缺シテ根本的ニ其進行ヲ妨害スルニ至ルカ故ニ、其效力ハ絶體的ニシテ單リ當事者及ヒ其承繼人ニノミ限ラス何人ニ對スル關係ニ於テモ亦發生スルナ

リ。此點ニ於テ時効ノ自然中斷ハ法定中斷ト異ル。

【註】1、占有カ他人ニ奪ハレタルコトニ因リテ生シタル時効ノ中斷ハ占有者カ占有回收ノ訴ヲ提起スルコトニ因リテ之ヲ妨クルコトヲ得（第二〇三條）。

【註】2、取得時効ノ要件中「占有、而シテ其平穩且公然」ナルコトハ第一六二條第一項及ヒ第二項ニ通スル不可欠ノ要件ナリ。占有ノ喪失カ時効ノ中斷事由トナルハ實ニ此要件中其一ヲ欠缺スルニ因ル。民法ハ第一六四條規定シテ取得時効ノ中斷事由ヲ單リ占有ノ喪失ニノミ限ルモノノ如クナレ共、非ナリ。惟フニ時効ノ中斷ハ畢竟其要件ノ欠缺ニ緣由スルモノナルカ故ニ、管ニ之ヲ占有ノ喪失ノミニ限ルノ謂レナケレハナリ。故ニモシ平穩且公然ノ占有カ強暴又ハ隱秘ノ占有ニ變スルトキハ孰レモ皆時効中斷ノ事由タルヘキモノト解セサルヘカラス。蓋シ占有ノ平穩、公然ナルコトハ固ヨリ占有自體ノ要件ニ非スト雖モ取得時効ソノモノノ要件ナレハナリ。

取得時効ノ進行ハ自然中斷ニ因リテ根本的ニ妨害セラル。然レ共其中斷事由ノ終了シタル時更ニ其進行ヲ開始スルコト法定中斷ノ場合ニ亦同シ。

四、取得時効ノ效力

占有者ハ取得時効ノ完成ニ因リテ新ニ所有權ヲ取得ス。而シテ此取得ハ原權即チ他人ノ所有權ニ基キタルモノニ非スシテ實ニ取得時効ソノモノノ效果ナリ。故ニ時効取得ハ之ヲ原始的取得ト謂フコトヲ得。

原始的取得ナルカ故ニ新權利者ハ原權利者ニ存セシ負擔、制限、瑕疵ヲ承繼スルコトナシ。

取得時効ノ效力

例へハ時効ニ因リテ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキ其土地ノ上ニ存シタル抵當權、質權ノ如キ制限ハ之カ爲メニ消滅スルカ如シ、尤モ公法上ノ負擔ハ之カ爲メニ消滅スルコトナシ。

時効ニ因ル所有權ノ取得ハ他人ノ權利ニ基クモノニ非スト雖モ、其權利ノ客體ハ同一物ナルカ故ニ一物ニ主ヲ排斥スル關係上他人ノ所有權ハ即チ之カ爲メニ消滅ス。然レ共斯ノ如キハ新ニ取得サレタル所有權ノ效果ニシテ消滅時効ノ效果ニ因ルモノニ非ス。彼此區別シテ觀念スルコトヲ要ス。

第三款 所有權以外ノ財産權ノ取得時効

所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス（第一六三條）。

要件

所有權以外ノ財産權ノ取得時効

一、其要件次ノ如シ。

1、準 占有

準占有トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ所有權以外ノ財産權ヲ行使スルヲ謂フ（第二〇五條）。

2、「前條ノ區別ニ從ヒ」トハ準占有者カ善意無過失ナリヤ否ヤノ區別ヲ謂フ。故ニ善意無過失

ナルトキハ時効期間ヲ十年トシ、然ラサルトキハ二十年トス。

3、平穩、公然、善意、無過失ノ意義ハ前述セシ所ニ同シ。

4、十年又ハ二十年ノ期間ヲ繼續スルコトヲ要ス。

二、中斷 準占有ノ喪失ヲ以テ其事由トス（第一六五條）。

三、適用範圍

所有權以外ノ財産權ト謂フノ外法典ニ特則ナシ。然レ共所有權以外ノ財産權中尙ホ其權利ノ性質、又ハ法律ノ規定上時効取得シ得サルモノアリ。次ノ如シ。

a、占有權 時効ヲ適用スヘキ餘地ナシ。蓋シ占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持シ又ハ權利ヲ行使スルコトニ因リテ當然ニ發生スル權利ニシテ時効完成ニ必要ナル時ノ經過ヲ要求セサレハナリ。尙ホ消滅時効ニ罹ラサルコトニ付テモ亦同シ（第一八〇條、第二〇三條、第二〇五條）。

b、不繼續又ハ不表現地役權（第二八三條）

c、一回ノ行使ニ因リテ直ニ消滅スヘキ權利、例へハ取消權、解除權、選擇權、買戻權、及ヒ不可分ノ給付ヲ目的トスル債權等 蓋シ時効ノ要素タル事實關係ノ繼續ナケレハナリ。

d、身分ニ專屬スル權利 假令財産權的性質ヲ有スルモノニ於テモ、ソハ一定ノ身分ヲ前提ト

中斷  
適用範圍



スルモノナルカ故ニ其性質上時效取得セラル、コトナシ。例ヘハ扶養ヲ受クル權利ノ如シ。  
 e、留置權、先取特權（第二九五條、第三〇三條） 此等ノ權利ハ一定ノ事由ニ因リ法律上當然ニ成立シタルモノニシテ、當事者ノ意思表示ニ基クモノニ非サレハナリ。  
 f、從タル權利、從タル權利ハ主タル權利ト法律上其運命ヲ共ニスルモノナルカ故ニ、主タル權利ト共ニ時效ニ罹ルノ外單獨ニ取得時效ニ罹ルコトナシ。

### 第三節 消滅時效

#### 第一款 總 說

消滅時效ノ  
意義

一、消滅時效 (erlöschende Verjährung ; extinctive prescription) トハ權利消滅ノ原因タルヘキ時效ヲ謂フ。

消滅時效ノ  
要件

二、消滅時效ノ要件ニ二種アリ。一ハ權利ノ不行使ニシテ、他ハ一定期間ノ經過是ナリ。

1、權利ノ不行使

權利ノ不行使トハ權利者カ權利ヲ行使シ得ルニモ拘ラス之ヲ行使セサル状態ヲ謂フ。然レ共其不行使ノ原因ハ之ヲ問ハス、權利者カ其權利ノ存在ヲ知レルト否トモ亦之ヲ問ハサルナリ。

イ、消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス（第一六六條第一項）。茲ニ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時トハ權利ヲ行使スルニ付キ法律上可能ナル時即チ法律上障礙ノ存セサル時ヲ謂フ。故ニ事實上又ハ權利者ノ身上ノ障害、例ヘハ天災地變又ハ權利者ノ疾病不在等ニ因リテ假令權利ヲ行使スルコト能ハサルカ如キコトアルモノハ固ヨリ尙ホ消滅時效ノ進行ヲ妨ケサルナリ。  
 ロ、始期附又ハ停止條件附權利ニ在リテハ其期限ノ到來又ハ其條件ノ成就セサル限り其行使アルコトナシ。是權利者カ其權利ヲ行使シ得ルニモ拘ラス之ヲ行使セサリシニ因ルニ非スシテ、法律上行使スルコト能ハサルカ故ニ之ヲ行使セサルニ因ルナリ。故ニ之ニ付キ固ヨリ消滅時效ノ進行ヲ許容スヘキニ非ズ。然レ共其權利ノ目的物カモシ第三者ノ占有ニ屬スルモノナルトキハ、第一六二條及ヒ第一六三條所謂取得時效ノ進行ヲ始ムルコトアルヘシ（第一六六條第二項）。コト場合ニ於テモシ始期又ハ條件附義務者（現在ノ權利者）カ其進行ヲ中斷シタル場合ハ格別、モシ然ラサル場合ニ於テハ始期又ハ條件附權利者ハ現在ノ權利者ニ非サルカ故ニ之ヲ中斷スルニ由ナク、隨ツテ始期又ハ條件附權利ノ客體ハ消滅時效ノ進行前又ハ進行中ニ於テ既ニ第三者ノ爲メニ時效取得セラルルコトアルヘシ。是期限附又ハ條件附權利者ニ對シテ酷ナル結果ト謂フヘシ。故ニ民法ハ之ヲ救済センカ爲メ第一六六條第二項但書規定ヲ設ケテ、始期又ハ條件附權利

ヲ有スル者ヲシテ第三者ノ爲メニ進行セル取得時效ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ其占有者ニ承認  
(占有物カ始期又ハ條件附義務者ノ所有ナルコトノ承認)ヲ求ムル權利ヲ附與セリ。

2、一定期間ノ繼續スルコトヲ要ス。但シ期間ノ長短ニ付テハ各種ノ權利ニヨリテ異ル。後述  
ノ如シ。

三、總テ財産權ハ消滅時效ニ罹リテ消滅スルヲ原則トス。但シ法律ノ規定(第一六七條第二項)又ハ  
權利ノ性質上其例外アリ。後述スヘシ。

四、消滅時效ニ付テハ取得時效ト異リ民法及ヒ商法ニ特別時效ノ規定アリ (第一二六條、第四二六  
條、第七二四條、第七五九條第三項、第八九四條、第九六六條、第九九三條、第一〇二二條第二項、第一一四五條、商法第  
二八五條、第三二八條、第三二九條、第三五六條、第四四三條等)。故ニ民法第一六七條以下ノ一般の原則規定  
ハ性質上他ノ法條ニ特別ノ規定ナキ場合ニ限り之ヲ適用スヘキモノトス。

第二款 各種ノ消滅時效

一、債權ノ消滅時效

債權ノ消滅スル時效期間ハ原則トシテ十年ナリトス(第一六七條第一項)。但シ種々ノ例外アリ。  
次ノ如シ。

債權ノ消滅  
時效

定期金債權

1、定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス。最後ノ辨濟期  
ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ(第一六八條第一項)。

a、定期金ノ債權トハ終身又ハ一定ノ期間定期ニ反覆シテ金錢其他ノ不特定物ノ給付ヲ受クル  
コトヲ内容トスル一個ノ債權ヲ謂フ。随ツテ時ノ經過ト共ニ個々ノ具體的債權ヲ發生セシム。  
基本債權又ハ母權タル定期金債權ニ對シテ之ヲ支分債權ト謂フ。

b、定期金債權ニ二種アリ。獨立の定期金債權及ヒ從屬的定期金債權是ナリ。終身年金、有期  
年金、定期拂ノ扶養料、恩給等前者ニ屬シ、利息債權、小作料債權、借貸ノ債權等後者ニ屬サ  
ン。然レ共後者ハ元本債權、永小作權、賃借權ニ從屬セル債權ニシテ其性質上單リ獨立シテ消  
滅時效ニ罹ルコトナシ。第一六八條所謂定期金ノ債權トハ前者ニ之ヲ限り、後者ハ之ニ屬サス。  
c、定期金債權ノ消滅時效期間ニ二種アリ。其長期ハ二十年ニシテ、其短期ハ十年ナリトス。  
前者ハ第一回ノ辨濟期ヨリ之ヲ起算シ、後者ハ最後ノ辨濟期ヨリ之ヲ起算ス(第一六八條)。

【註】「第一回ノ辨濟期」ナル字句ニ二義アリ。一ハ定期金ノ第一回辨濟期ヲ謂フト爲シ、他ハ辨濟ヲ怠リタ  
ル最初ノ辨濟期ヲ謂フト爲ス。第一六八條ノ解釋上前説ヲ以テ正當トスヘシ。

d、定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

(第一六八條第二項)。

惟フニ毎期ノ辨濟ハ債務承認トシテ時效中斷ノ效力ヲ有スレ共、コノ事實ヲ立證スル受取證書ハ専ラ債務者ノ手裡ニ在ルノミナラス、定期金ノ債權ハ其完済ニ至ル迄多クハ長年月ヲ要スルカ故ニ民法ハ債權者保護ノ必要上、債權者ニ附與スルニ時效ノ中斷ヲ立證スル債務者ノ承認書ヲ何時ニ於テモ要求シ得ル權利ヲ以テセリ。

2、年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(第一六九條)。

a、本條所謂債權トハ定期金債權ヲ母權トスル支分債權ヲ謂フ。即チ定期ニ支拂ハルヘキ金錢又ハ其他ノ不特定物ヲ目的トスル個々ノ債權ニシテ其期間カ年又ハ之ヨリ短キモノヲ指稱ス。例ヘハ毎年、每半歲、毎月等ニ支拂ハルヘキ利息、借貸、小作料、地代、扶養料、年金、俸給、給料等はナリ。

b、此等ノ債權ニ對シ何故短期消滅時效ヲ認メタリヤ。其理由種々アルヘシト雖モ、惟フニ此種ノ債權ハ日常ノ取引ニ於テ頻繁ニ發生シ而モ其額カ通常多額ナラサルハ其一ナリ。多額ナラサルカ故ニ其取立ヲ怠ルノ嫌アルハ其二ナリ。延滞ヲ重ヌルカ爲メ債權額次第ニ遞増シテ債務者

五年ノ時效

ノ負擔ヲ著シク加重セシムルハ其三ナリ。又領收證ヲ交付スルモ其紛失ヲ免レサルハ其四ナリ。c、「年又ハ之ヨリ短キ時期」ト謂フカ故ニ、一年以上ノ時期ヲ以テ定メラレタル債權ニハ本條ノ適用ナク、月以下ノ時期ヲ以テ定メラレタル雇人ノ給料ノ如キニモ亦第一七四條第一號ノ規定上本條ノ適用ナキモノトス。

三年ノ時效

3、左ノ債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(第一七〇條、第一七一條)。

a、醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權。

b、技師、棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權 但此時效ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス。

c、辯護士、公證人及ヒ執達吏カ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付テノ責任 但此時效ハ辯護士ニ付テハ當該事件ノ終了ノ時ヨリ、公證人及ヒ執達吏ニ付テハ其職務執行ノ時ヨリ之ヲ起算ス。而シテ茲ニ「其責ヲ免ル」トハ此等ノ者カ其職務ニ關シテ受取リタル書類ヲ其所有者又ハ其返還請求權者ニ對シテ返還スル責任ヲ免ル、ヲ謂フナリ。

二年ノ時效

4、左ノ債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(第一七二條、第一七三條)。

a、辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權 此時效ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ之

ヲ起算ス。但シ其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事  
項ニ關スル債權ハ消滅ス。

b、生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價債權。

c、居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權。

d、生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權。

【註】居職人トハ雇傭關係ニ立ツコトナク自己ノ住居又ハ店舗ニ在リテ他人ノ爲メニ仕事ヲ爲スヲ業トスル  
者ヲ謂フ。例ヘハ理髮師、洗濯業者、裁縫師等ノ如シ。

一年ノ時效

5、左ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス（第一七四條）。

a、月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料。

b、勞力者及ヒ藝人ノ賃金、並ニ其供給シタル物ノ代價ノ債權。

c、運送賃ノ債權。

d、旅店、料理店、貸席及ビ娯遊場ノ宿泊場、飲食料ノ債權、席料、木戸錢、消費物代價並ニ  
立替金ノ債權。

e、動産ノ損料ノ債權

### 二、債權以外ノ財産權ノ消滅時效

債權以外ノ  
財産權ノ消  
滅時效

1、債權又ハ所有權ニ非サル財産權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス（第一六七條第二項）。

a、所有權ハ取得時效ノ適用ヲ受クト雖モ消滅時效ノ適用ヲ受クルモノニ非ス。是所有權ハ永  
久的性質ヲ有スル權利ニシテ且ツ法令ノ制限内ニ於テハ其行使方法ニ付キ何等ノ制限ヲ受クル  
コトナキカ故ニ其行使不行使ニ拘ラス存続スルニ因ルナリ。但シ取得時效ノ適用ヲ受クルノ結  
果他人カ取得時效ノ完成ニ因リテ所有權ヲ取得スルトキハ一物二主ヲ排斥スル關係上反射的ニ  
其消滅スルコト既ニ之ヲ説キタリ。

【註】所謂物の請求權（所有物返還請求權及ヒ妨害除去請求權）ニ消滅時效ノ適用アリヤ。解釋上議論アレ共  
之ヲ消極ニ解ス。蓋シ物の請求權ハ其性質債權ニ準スヘキモノアレ共、本來原權タル所有權ノ圓滿ナル行  
使ヲ確保スル救済權タル性質上、原權タル所有權ニ從屬スル權利ナリヤ亦明カナリ。故ニ原權タル所有權  
カ消滅時效ヲ排斥シテ存続スル限り、其救済權タル物の請求權カ單リ消滅時效ニ罹ルト爲スカ如キハ制度  
上寧ロ矛盾ナレハナリ。

b、形成權ハ權利者ノ單獨行爲ニ因リテ一定ノ法律關係ヲ形成シ得ル權利ニシテ、之ニ屬スル  
權利ハ大多數財産權ニ屬スレ共、物權又ハ債權ト其性質ヲ異ニスル特殊ノ權利ナルコト近時一  
般ニ認メラレタル所ナリ。果シテ然ラハ形成權ニ對スル消滅時效期間ハ第一六七條規定中其孰

形成權ト消  
滅時效

物的請求權  
ト消滅時效

所有權ト消  
滅時效

消滅時效ヲ  
排斥スル財  
産權

レニ依ルヘキヤ。大審院ハ近時形成權カ特定人ニ對スル權利ナルコトヲ理由トシテ之ニ債權ノ消滅時効ニ關スル第一項ヲ適用シタリ。然レ共吾人ハ凡ソ權利ノ本質ハ其内容ニ付キ之ヲ檢討スヘク、唯其何人ニ對スルヤノ如キ客體ニ付キ之ヲ檢討スヘキモノニ非スト思惟スルカ故ニ、形成權ノ内容カモシ債權ノ消滅時効ニ關スル第一項ノ規定ヲ準用スルヲ以テ妥當トスル場合ハ格別、其然ラサル場合ニ於テハ形成權カ既ニ物權又ハ債權ト特殊ノ性質ヲ有スル權利ナリト認めラレタル關係上之ニ第二項ヲ準用スルヲ以テ相當ナリト信ス。

2、所有權以外ノ財産權ニシテ其性質上消滅時効ノ適用ヲ排斥スルモノアリ。其二、三ニ付キ之ヲ例示スレハ次ノ如シ。

- a、占有權 其理由ハ占有權カ取得時効ヲ排斥スル場合ニ付キ述ヘタル所ニ同シ。
- b、擔保物權 性質上債權ニ從タル權利ナルカ故ニ債權ノ消滅時効ニ罹ラサル限り、之カ單リ獨立シテ消滅時効ニ罹ルコトナシ。但シ特則アリ(第三九六條)。
- c、抗辯權 請求權ノ反對權ナルカ故ニ請求權ノ存在スル限り消滅時効ニ罹ルコトナシ。
- d、一定ノ法律關係ニ當然伴フヘキ權利 例ヘハ相隣權(第二〇九條以下)、共有分割ノ請求權(第二五六條)等ノ如ク其隨從スヘキ法律關係ノ存續スル限り單リ獨立シテ消滅時効ニ罹ルコトナシ。

財産權以外  
ノ權利ト消  
滅時効

- 其他解約權(基本契約ノ存在スル限り)、妻ノ財産ニ關スル夫ノ使用收益權(夫婦關係ノ存在スル限り)、扶養ヲ受クル權利(第九五四條規定スル親族關係ノ存在スル限り)等亦同シ。
- 3、財産權以外ノ權利ハ消滅時効ニ罹ラサルヲ以テ原則トスレ共、尙ホ消滅時効ノ適用アルモノアリ。其主ナルモノ次ノ如シ。
  - a、夫又ハ妻ノ有スル取消權(第二二〇條、第二二六條、第七九二條)。
  - b、隱居取消權(第七五九條第二項)。
  - c、相續回復ノ請求權(第九六六條、第九九三條)。
  - d、相續ノ承認又ハ拋棄ノ取消權(第一〇二三條第二項)。

# 日本民法總論 終

昭和五年十一月三十日印刷  
昭和五年十二月三日發行

日本民法總論

定價金參圓參拾錢

不許複製

著者 藤本捨助

東京市神田區小川町三十七番地

發行者 神戶文三郎

東京市神田區錦町三丁目五番地

印刷者 太田米吉

發行所

（東京市神田區小川町三十七番地）  
電話 振替 東京四七七八八番

大明堂書店

一刷印・所刷印田太一

大 明 堂 發 行 好 評 書 目

伊藤千眞三先生著 最新國民道德要領 (菊判三百頁)	同 先生著 最新教育大意 (菊判三百四十頁)	同 先生著 倫理學綱要 (菊判三百五十頁)	同 先生著 道德學の體系と公民科の原理 (菊判三百三十頁)	高木直一郎先生著 漢文作法講義 (菊判三百六十頁)	植木直一郎先生著 日本古典研究 (菊判二百八十頁)	江木千之閣下題詩 承久殉難の五忠臣 (四六判百五十頁)	見尾勝馬先生著 哲學新綱 (四六判五百頁)	草場弘先生著 西洋哲學史 (菊判三百五十頁)	土屋周作先生著 教育的心理學 (菊判五百五十頁)	梅澤敬謙先生著 倫理學概論 (菊判百九十頁)	東京地方裁判所理事 星野武雄先生著 最新法學通論 (菊判三百三十頁)	同 先生著 最新法學通論 (菊判四百餘頁)	埼玉縣師範學校教諭 高岡好廉先生著 最新農學綱要 (菊判五〇〇頁)	早稻田大學講師 永雄節郎先生著 內燃機 (菊判三百餘頁)	豊島師範學校教諭 萬富三先生著 圖畫の學習 (菊判三百餘頁)	豊島師範學校教諭 山本正夫先生著 音樂の學習 (菊判三二〇頁)
價 壹圓八拾錢 送料 十二錢	價 壹圓八拾錢 送料 十二錢	價 貳圓五拾錢 送料 十八錢	價 貳圓八拾錢 送料 十八錢	價 貳圓八拾錢 送料 十八錢	價 貳圓五拾錢 送料 十二錢	價 貳圓八拾錢 送料 十八錢	價 貳圓 送料 十二錢	價 貳圓 送料 十二錢	價 壹圓六十錢 送料 十二錢	價 壹圓六十錢 送料 十二錢	價 貳圓 送料 十二錢	價 參圓八拾錢 送料 十八錢	價 參圓八拾錢 送料 十八錢	價 參圓八拾錢 送料 十八錢	價 貳圓八拾錢 送料 十八錢	價 貳圓八拾錢 送料 十八錢

圖 書 目 錄 申 越 第 次 送 呈

600  
171



